

平成29年度 第3回文化財保護委員会 次第

と き 平成30年 2月27日 (火)

午後 2時から

ところ みよし市役所 2階 201会議室

1 開会

2 あいさつ

3 協議

議題 文化財資料購入について

4 閉会

平成30年2月7日

みよし市文化財保護委員会
委員長 石川 芳秋 様

みよし市教育委員会
教育長 今瀬 良 江



文化財資料の購入について（諮問）

このことについて、下記のとおり文化財資料を購入したいので、貴委員会の意見を求めます。

記

1 購入予定文化財（絵画等）

小島老鉄画・伊豆原麻谷跋 卷子「筆端画禅」

2 購入事由

当該作品は、伊豆原麻谷の友人の一人である小島老鉄の作であり、その跋文を麻谷が記している。麻谷の書の作品としてはもちろん、交友関係や他者の絵画に対する見識を知るうえで意義深い作品であり、質的にも優れていると判断し、収蔵資料として購入し展示事業及び研究資料として活用したい。

3 文化財説明資料

別添のとおり

購入予定文化財資料一覧

番号	概要説明		
1	卷子「筆端画禅」	小島老鉄 画、伊豆原麻谷 跋・箱書	■■■■ 円
<p>作者の小島老鉄(1793-1852)は、名古屋の画家で麻谷と親しく、二人の合作も残されている。本作は、熱田と思われる風景を描いたもので、風俗画としての面白みに加え、老鉄の技術の高さがうかがえるものである。末尾に麻谷による跋文があり、そこからは老鉄と麻谷の関係性も窺われ、麻谷の人間性を知ることが出来る資料であり、加えて麻谷による箱書きも現在確認されているのは数点であるため、資料的価値も高い。卷子という形態のため、特殊な展示効果も期待できる良品である。</p>			

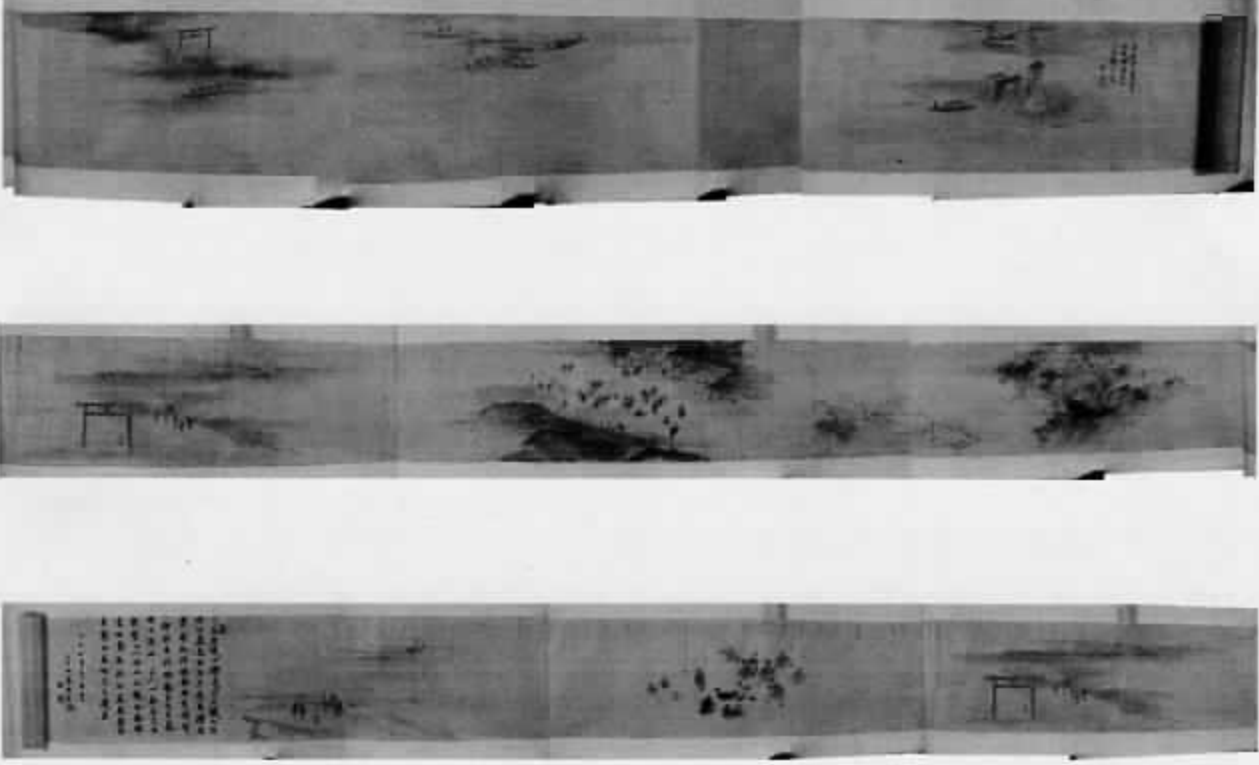
(参考) 小島老鉄

小島老鉄(1793-1852)は、名古屋に生まれ、山本梅逸らに学んだ画家です。当時の書画会のチラシには、麻谷(1778-1860)と並んで記されることも多く、世間では麻谷と老鉄を同じように評価していたことがうかがえます。また、老鉄の息子が麻谷の門人となっていたり、二人による合作が残されていたりと、麻谷と老鉄が親しい間柄であったことがうかがえます。



資料館所蔵 伊豆原麻谷・小島老鉄合作 山水図 (左側が麻谷・右側が老鉄)

麻谷作品調書

作品（資料）名	卷子「筆端画禅」		
作者名	小島 老鉄 画 、 伊豆原 麻谷 跋 ・ 箱書		
品質及び形状	紙本墨画淡彩	員数	1巻
法量	24.0 (cm) × 656.5 (cm)		
時代（製作年）	老鉄画 嘉永4年（1851） 麻谷跋 安政3年（1856）		
その他	平成 年 月 日 （株）思文閣 XXXXXXXXXX		
			

麻谷作品調書

作品(資料)名	卷子「筆端画禅」		
作者名	小島 老鉄 画、伊豆原 麻谷 跋・箱書		
品質及び形状	紙本墨画清彩、卷子装	員数	1巻
法量	. (cm) × . (cm)		
時代(製作年)			
その他	平成 年 月 日 (株) 思文閣 XXXXXXXXXX		
<p>小島老鉄の技量、特に細密な表現と真景図の ような写實的表現、をいかんなく発揮した秀作だと 思います。当時の庶民の風俗を知りにもよい作品です。</p> <p>また、後跋の伊豆原麻谷のこの作品、及び老鉄の 表現についての解説(賛)も面白く、二人の関係、 (友情、評価等)のうかがえり好資料でもあると 考えます。</p> <p>画面の継ぎ、いくつかの紙の大きさの違いなどから この画面の順序によつて、描かれた場所が、 熱田近辺を4つばかりも含めて、今後調査を進めよ いく必要があると思います。</p> <p>展示効果もあり、価格的にも納得のいくもので、美術館 で収集するにふさわしい作品と考えます。</p> <p style="text-align: right;">吉田俊英</p>			